

邂逅 日出國編

かいこう



須田隆久 (カンテ・琵琶)

カンテをイスマエル・フェルナンデス他、ギターをアグスティン・デ・ラ・フエンテに師事。フラメンコを生業にしながら鶴田流薩摩琵琶を岩佐鶴文に師事。楽琵琶も伝授を受ける。正倉院の宝物である聖武天皇の愛蔵品、螺鈿紫檀五絃琵琶を弾き語る世界で唯一の奏者となる。能楽の謡を宝生流能楽師藤井雅之に師事。海外の能楽公演にて琵琶を演奏。各地の能楽公演に琵琶奏者として出演。2023.11月スペインセビージャ市庁舎前、老舗タブラLos Gallos エスパルティーナ・ロレオ教会、ヘレス老舗タバンコEl Pasajelに琵琶語りで出演。スペイン語での琵琶語り作品を発表。



彌月大治 (フラメンコギター・津軽三味線)

1991年、小学6年生にして全日本ギターコンクール関西予選、一般の部にて入賞。
1993年、日本ギターコンクール(読売大賞) 銀賞。
1994年~1996年、同コンクール金賞(3年連続)。
1995年、ギター音楽大賞、入賞。
同年、同コンクールアンサンブルの部にて、ギターオーケストラのソリストとして第1位。
同年、大阪のザ・シンフォニーホールにて公演を果たす。
2021年、webフラメンココンテスト、最優秀賞



山崎愛 (フラメンコダンサー)

大学在学中にスペインでフラメンコに出会う。グラナダで見たヒターノの情熱的な踊りに衝撃を受け帰国後すぐフラメンコを始める。日本で数年間、教室に通った後スペインで見たフラメンコとの違いに疑問を覚え仕事を辞め渡西。渡西を繰り返してファミリア・ファルネコを中心に多くのスペイン人に師事。2012年日本フラメンコ協会第21回新人公演バイレソ部門 準奨励賞受賞。2014年には奨励賞受賞。関西を中心にライブ・教授活動に励む。(京都・大阪でクラス開講)



Anilla Flamenco (フラメンコダンサー)

フラメンコの魅力を伝えようと、2010年に結成したグループ。アニージャ (Anilla) はスペイン語で「輪」という意味で、金沢からフラメンコの輪を広げたいというメンバーの想いが込められている。イベントやライブ出演、企画など、金沢を中心に精力的に活動。フラメンコクラブ・ルナーレスに所属し、北國新聞文化センター講師を務める。また個人指導も行うなど、フラメンコの輪を広げる活動をしている。



戸田裕美 (フラメンコダンサー)

子供の手が離れたことを機にフラメンコを始め、2017年に短期修行にセビージャへ。Maria der Mar Berlanga Fernandez のカスターネットに魅せられ、帰国後は福井市にクラスを持つ寺井夢を師にカスターネットと踊りの表現を広げる。また踊りの糧としてカホンやカンテに取り組み、Miki La Canastera からも指南を受けている。石川県能美市在住



Nalika (ラージャスターンダンサー)

体も心もボロボロで自分とは何かと問う暗闇のような日々の中でジプシーを描いた映画に出会い恋に落ちる。
2009年よりインドのラージャスターンに毎年長期滞在し、現地のダンサーや音楽家と共に過ごし、ラージャスターンダンスを学びインド各地で踊る。
大阪を中心にクラスやショーを企画し、ラージャスターンのカラフルで心躍るダンスと音楽を広め続けている。
又、現地を実際に感じてほしいという気持ちから 2019年よりラージャスターンツアーも開催している。



國光秀郎 (フラメンコギター)

1989年土橋幸男氏にフラメンコギターを師事。1991年 単身渡西。1992年よりフラメンコギタリストとして活動を始める。マリオ エスクデーロに師事する傍らマノロマリ、アンドレス マリンなどの著名な舞踏家のもとで伴奏の研磨を積む。帰国後、数々の舞台等で多くのアーティストと演奏の機会を得る。また来日アーティストのライブやクラスレッスンの伴奏なども経験。2007年よりジプシーズウィングジャズのギタリストとしても活動を始め、MonDieuのリズムギターを担当。2022年6月ニューアルバムborderlessをリリース。



及川景子 (アラブオリエンタルバイオリン)

音楽の源流、魂の音楽をもとめ、たどり着いた中近東の音楽手法に傾倒。岡洋子氏にクラシック・ヴァイオリンを師事。チュニジアのベシール・セルミ氏、エジプトのアブ・ダーゲル氏およびサード・ムハンマド・ハサン氏に、アラブ・ヴァイオリン奏法とアラブ古典音楽理論を師事。全国各地でアラブ・中近東音楽の演奏、ダンスとのコラボレーション、CD解説、各種レクチャー、DJやヒューマンビートボックスとの共演などで、オリエンタル音楽とヴァイオリンの表現の可能性を発信している。



福井則之 (ホーミー・馬頭琴)

大学生のころから独学でホーミーと馬頭琴を始める。2004年に中国の内モンゴル自治区に留学。内蒙古大学芸術学院にて馬頭琴を専攻。馬頭琴はハズバガン氏、ホーミーはフグジルトウ氏に師事する。帰国後は馬頭琴・ホーミー教室を開き、各地で演奏やワークショップを行う。



加藤恵子 (フラメンコダンサー)

金沢のフラメンコ教室「アイレ・フラメンコ」にて寺田千賀子氏のもと、フラメンコを学び始め、伝説のアルティスタ、エンリケ・エル・コホの映像を見て衝撃を受け、フラメンコの沼にはまる。1998年に初渡西。その後数回短期留学をし、カルメン・レディスマ、カルメラ・グレコ等に学ぶ。現在は小島裕子氏と山崎愛氏に師事し、改めてフラメンコに魅了されている。



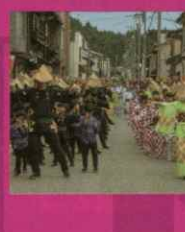
前田美智子 (フラメンコダンサー)

石川県金沢市出身。友人に誘われスタジオエストレージャ忠縄美貴子氏のもとフラメンコを習い始め、イベントやライブ経験を積みながら寝ても覚めてもフラメンコを毎日を送る。現在、小島裕子氏、山崎愛氏に師事。アンドレス・ペーニャ氏等多数のスペイン人のクラスにも積極的に参加し研鑽。石川、関西でイベントやライブに出演しフラメンコを深め学び中。



平野美希子 (フラメンコダンサー)

金沢美術工芸大学在学中にフラメンコと出会い卒業後、数回のスペイン留学を経て能登にて教授活動開始。2016・2017年北陸最大級のフェスティバル「バセオでフラメンコ」、2018年志賀町にて「スペインまつり」を企画開催。2020年「フラメンコと日本の伝統芸能の会」立ち上げ、毎年自主公演を主催。2023年かほく市に新スタジオESTUDIO ARTE オープンし、かほく市と金沢で教授活動中。現在は山崎愛氏、小島裕子氏に師事。



富山県民謡越中八尾おわら保存会 東町支部

越中八尾おわら節は、江戸時代から 300 余年の歴史がある。その由来は諸説あり、様々な変遷を経て今のよう形に確立したのは、昭和4年に川崎順二初代会長を中心におわら保存会が設立された頃。東町はおわらの伝統文化を保存継承している 11 町の中心部に位置する町で、かつては本店が連なり、おわら保存会初代会長川崎順二や唄の名手江尻豊治を生むなど、おわらの芸術性を育んだ町である。当時の遊び心は衣装や雰囲気にも伺える。